



NPO法人チャリティーサンタ  
Charity Santa

# サンタ新聞

2015年6月  
～  
2016年5月

サンタが来ない日本の子どもへー！  
ルドルフ基金スタート p5

サンタを呼んで6年！  
愛用者インタビュー p3



- p2 2015年度活動成果の"総まとめ"
- p4 全国から寄せられた参加者の声
- p6 子ども達の未来を創る「支援活動」
- p7 サンタさんのお財布事情(収支報告)
- p8 わたし達が目指している世界

# 2015年、活動レポート!

2008年に活動開始、2014年にNPO法人化。  
チャリティーサンタの法人2年目のご報告!

2015年は新たに盛岡、三重、沖縄で活動がスタートし、19都道府県・25地域で活動を行いました。

クリスマスに集まったチャリティーは、夏には「ふくしま生き活きキッズツアー」(福島在住の子ども向けの1週間程度の保養ツアー)を岡山と甲府で開催したり、2015年3月に大きな地震の被害のあったネパールでも子ども向けの支援活動を行いました。(詳しくは、P6へ)

## 有給スタッフが増えました!

2010年よりいちボランティアとして活動に参加していた城田(茅ヶ崎市在住)が2015年より正式に有給スタッフとして加わりました。代表の清輔(きよすけ)に続いて2人目の職員として、会計や事務作業などNPO法人業務全般や全国で行うサンタ活動の運営サポートも担っています。



ということで本人より一言もらいましょう! 「私のキャッチコピーは「笑顔が原動力の熱い男」です。特に子どもの笑顔が一番の原動力です。私は、チャリティーサンタに出会った事で人生が変わりました。そんなチャリティーサンタに恩返しをするために、仕事としてやる決意をしました。縁の下の力持ちとして、組織を支えていきますので、応援よろしくお願いします!」by 城田

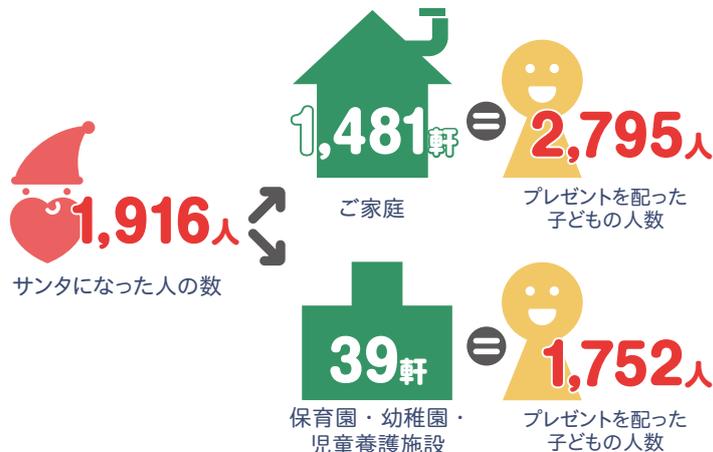
## 「サンタが来ない子ども」が日本にもいる?

新たにはじめた取組のひとつとして、最も注力したのは「サンタが来ない日本の子ども」への活動。

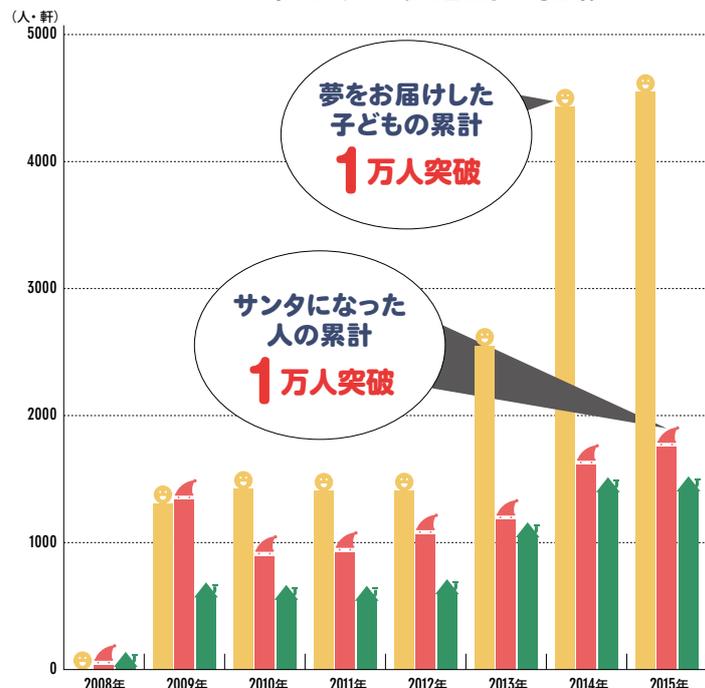
2015年夏。2008~2014年までに延べ1万人の子どもに活動を届けてきた中で、一度立ち止まり、改めて振り返る機会がありました。そこでわかったのは、その1万人の中には「経済的に厳しい家庭の子どもがほとんどいない」という事実。

「(サンタを呼ぶために寄付してもらおう) 2千円という金額が負担になっているのか?」「広報の仕方に問題があって、認知されていないのか?」色んなことを考えていましたが、蓋を開けてみると、理由は違いました。そして、想像もしていなかった声が続々と集まって来たのでした。(詳しくは、P5へ)

## 2015年のサンタ活動の実績 (19都道府県、25地域)



## 2008~2015年のサンタ活動の推移



支部名	サンタ数	家庭数	子ども	チャリティー金	ルドルフ基金
札幌支部	45	18	61	36,000	21,000
秋田支部	96	52	96	98,000	36,000
盛岡支部	30	9	15	18,000	0
仙台支部	82	27	210	52,000	28,500
上越支部	13	6	13	12,000	2,000
群馬支部	48	22	44	44,000	17,000
北東京支部	163	114	311	196,000	133,000
南東京支部	112	141	255	214,000	112,000
多摩支部	58	36	101	72,000	26,000
千葉支部	62	51	153	102,000	68,000
横浜支部	88	95	220	132,000	66,500
湘南支部	39	44	149	84,000	44,000
甲府支部	93	82	156	142,000	76,000

支部名	サンタ数	家庭数	子ども	チャリティー金	ルドルフ基金
都留支部	11	6	15	12,000	8,000
名古屋支部	88	73	499	124,000	88,524
三重支部	46	11	24	22,000	18,000
大阪支部	81	91	319	176,000	3,000
岡山支部	86	60	116	98,000	66,500
津山支部	22	7	19	14,000	13,000
広島支部	95	100	443	158,000	66,400
香川支部	99	57	356	112,000	31,000
愛媛支部	81	31	111	58,000	26,000
福岡支部	104	102	257	182,000	61,000
北九州支部	37	29	57	54,000	13,000
沖縄支部	10	9	42	8,000	4,000
全支部合計	1,689	1,273	4,042	2,220,000	1,028,424
15年度合計	1,916	1,520	4,547		

※企業の社員がサンタになる取り組みの数を含む  
※保育園など施設の子ども数も含む

誰かの幸せを願って  
行動できる人に育ってほしい。

クリスマスイブは

# 家族にとって 大事な日

クリスマスの過ごし方の変化、上の子のサンタ卒業…  
6年以上リピート依頼を続けるKさんご夫妻に  
ロングインタビューを実施しました!



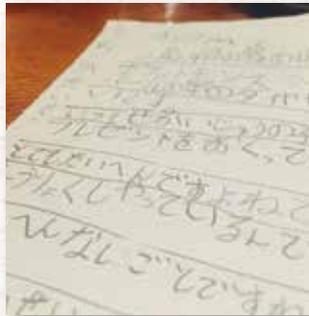
Kさん、ありがとうございます

インタビュアー…初めて依頼して頂いたのが、2010年なので、6年前ですね。  
P&Mママ…えー、もうそんなに経つんですねー！ 上の子は中学生になりました。

Q…初めてチャリティーサンタ(以下CS)の事を聞いた時、どんな風感じましたか？  
P…その時の純粋な感想はクリスマスという大事な日を、他人を喜ばせる為に過ごす若者がいること

にまずビックリして、感動しました。普通20代くらいだと恋人と一緒に過ごす良いレストランで食事して…って感じでしょ？  
Q…CSに参加する前は、どんなクリスマスをお過ごしでしたか？

Q…サンタが来るようになってクリスマスのおし方に変化はありましたか？  
P…何と言っても、大人がワクワクするようにになりました(笑) 依頼してメールで事前の打ち合わせをして、一方で子どもたちに気付かれないように知らんぷりをして…子どもたちよりも僕らの方がドキドキしているかもしれません。  
M…子どもたちは最初にサンタさんが来てからずっと、年中「サンタさんとあれを話した」とか「今年は〇〇をお願いしよう」と話題にしています。クリスマス当日はサンタさんの為にお菓子を作ったり、もう一大事です(笑)  
P…子どもたちと一緒にプレゼントを開ける、という事も、それまで



はできなかったね。  
Q…上の息子さんが中学生になった時はどうでした？  
P…去年、中学一年生の時について自分で聞いてきました。そこでCSの事を伝えました。  
Q…その時の息子さんは反応はどうでしたか？  
P…年頃的にあまり感情を表には出しませんでしたね。でも下の子どもはまだ小さいので、秘密は守れよ、と伝えて。そしたら去年のクリスマスは黙ってくれました。  
中学生だし、下の子ども達がサンタさん待っていることを茶化したりするんじゃないかって心配したんですが、そんな事は一切なく、ちよつと照れながら一緒にサンタさんからプレゼントを受け取っていました。優しい子に育ってくれたな、と思いましたね。  
M…小学校6年生まで信じていましたよ。  
Q…結構長いですよ。何か理由があるんですか？  
P…一番大きかったのは、4年生の夏にデイキャンプに行ったんですよ。僕は息子が物を出しっぱなしにする事に困っていて、その時もDSを持ってきて案の定テーブルに置きっぱなしにしていたので、妻が怒って自分の鞆に隠したんですよ。  
M…「ママはもう知らないよ！ちゃんと片付けないのが悪い！」と叱りまして。  
P…親としても子どもがキャンプに来てまでDSばかりに没頭するのは教育上どうかと思っていたので、それを機に息子に返さないで紛失した事しておいたんです。

で、クリスマスが近づいた時に欲しい物を聞いたら「やっぱりDSが欲しい」と言い出して。その時に「そうだ、サンタさんから返してもらおう」と思いついたんです。息子からしたら、なくしたはずのDSをサンタさんが見つけて自分に届けてくれた！と、驚いていいやら喜んでいいやらで、もう大興奮でしたね。  
M…4年生くらいだと、もう周りの友達から「サンタはいない」と噂が出始めるじゃないですか。でも我が家はそれがあつたので最後まで「サンタは本物だった！」と信じていました。  
Q…実際にサンタさんに会った時の様子はどうですか？  
M…子ども達は固まっていますね(笑)それまで「サンタさんはあの人じゃないか」と疑っていても、いざ登場すると大興奮だし、真剣に話を聞いている。嬉しそうなお子さんの様子を見るのは幸せですね。  
P…クリスマス当日も、実際いるんならハプニングが起こるんですが、当日までこれこれ画策したこと、子どもとの会話、サンタさんが登場した時の子ども達の表情など、一つひとつ思い出のバリエーションが豊かになるんです。  
CSがなければ、クリスマスは子ども達の為のイベントに過ぎなかったかもしれない。サンタさんが来ることで「家族にとっての大事な日」になったんです。  
M…ただプレゼントを渡すだけだったら、子どもがサンタさんを信じなくなったら終わってしまう。信じている家族に、大人も楽しめる家族にとっての一大行事として過ごす

らこそ、ずっとクリスマスを楽しみ続けられるんじゃないかなって思っています。  
P…僕たちは、基本、CSの仕組みにとっても共感しているんです。サンタを依頼することで、別の子どもたちを笑顔にすることができる。その仕組みが素晴らしいなと思っているので、子ども達がサンタを卒業しても依頼し続けていきたいんです。

大きくなつて、なんでもうちには毎年サンタが来るんだ」と聞かれたら、その時は「クリスマスに自分の事だけじゃなく、他人を笑顔にしよう」と行動している若者がいる、我が家がサンタを呼ぶ事で、別の子ども達の笑顔につながる。その「幸せなサイクルに参加したいじゃない」という話をしたいし、それを「いいね」と思ってくれる人に育って欲しい。  
上の息子は、今はサンタはCSだった、と理解はしているようですが、まだ、どんな仕組みなのかはわかっていないと思うんです。何年かして、じわじわと活動内容を理解してきて、実際にサンタになってプレゼントを渡す側になってほしいと思います。  
M…誰かの幸せを願って行動できる人に育ってほしいですね。





2015年

# サンタクロース

を呼んだ

になった

皆さんからの声



サンタさんを待っている間、子どもはピアノに合わせてジングルベルの歌を歌っていました。するとピンポンと来てくれて、夢のようでした。我が家は母子家庭なので、父親が節分の鬼役をするわけではなく、いつも寂しい思いをさせていたため、子どもが喜んでいる姿を見て、私も一生の思い出になりました。感謝しています。 **福岡県 30代女性**



訪問先の子どもに「サンタパワー」をあげるといって、おまじないみたいなことをしてみました。それがすごく効果があったらしく、親御さんからサンタパワー恐るべしと連絡がありました。自分の存在が子どもたちをやる気にさせたり、元気にさせたり、幸せにさせたりするというのが、すごく感動したというか、自分にもこんなことができるんだと気付くことができました。

**岡山県 20代男性**



サンタクロースを見て喜ぶのは子どものイメージでしたが、道行く人のみんなが笑顔になっているのを見て、お年寄りまで幅広い世代をサンタクロースは笑顔にできる素晴らしい人だと感じました。また、印象的だったのは、電車で出会ったおばあちゃんにクリスマスカードをあげたら喜んで微笑みながら何度も開けたり閉じたりしていたことです。気づけば私も笑顔になっていました。たくさんの笑顔を見て幸せなクリスマスでした。もっと沢山の人を笑顔にしたいと思いました。 **愛知県 10代女性**



最後に訪問したご家庭で家の壁にくっついて隠れていたら、家の中からトナカイさんと子供達が出ている声が聞こえた。訪問サンタさんに聞いたところトナカイは外にいるから呼んだら聞こえるかもしれないぞ、と言ったとのこと。寒さを忘れるくらい幸せでした。今まで家族パーティもしない普通の日だったクリスマスイブがこんなに素敵な時になって本当に幸せでした。この活動に参加したことでクリスマスイブが大切な日と認識できました。 **山梨県 10代女性**



今回、自分がサンタさんになって改めてサンタさんを信じるようになりました。それは、子供の時に描いていたサンタさんではありません。子供たちを笑顔にしたい、夢を届けたいと思っている人達がサンタさんなんだと、いうサンタさんです。このクリスマスはとて素晴らしい経験をさせていただきました。ありがとうございます! **愛媛県 20代男性**



「トナカイと一緒に来たの?」という質問に対し、「みんなに見つかるといけないから、魔法で見えなくしてあるんだよ。」と夢のある回答に子供たちは目を輝かせておりました。ツリーに子どもの手作りオーナメントを飾ってあったのを見つけていただき、サンタさんに褒めてもらいました。子供たちの笑顔が何よりも素敵な時間であったことを物語っていたと思います。本当にありがとうございました。 **宮城県 40代女性**



幼稚園ではずっと、サンタなんかいない、偽物!と言われていたので、娘も影響されて、疑っていました。実際にサンタさんに会うと、「ママ!やっぱり本当にあったね!!」と言って大興奮。今年は受験でしたので、「小学校合格おめでとう!お勉強頑張って偉かったね!」と言って頂き、私も今までの苦勞が蘇り、泣きそうになりました。お金や物ではなく、心が満たされたクリスマスをありがとうございました。 **東京都 30代女性**



「3年生になる長男は、サンタを見て冷めた態度になるかも」と心配していました。しかし!サンタが現れた瞬間「わ〜っ」と叫びながら、家中飛び回って喜び、しばらく口がきけないくらい放心状態でした。サンタから優しい言葉をかけてもらい、サンタが帰ったあとも目をギラつかせて「サンタさん、今、家を出たらス〜って消えた!魔法で次の家まで飛んでいったのかな」だって。9歳の長男がですよ!この調子なら来年も、まだ信じてくれますかね? **千葉県 50代男性**

Fukuoka

Okayama

Sendai

Nagoya

Koufu

Tokyo

Chiba

サンタさんを目の前にして娘は緊張していた様子でしたが、最後のサンタさんの「他の子供達の所にも行ってくよ」の一言が一番嬉しかったようです。

最近、厳しい環境で生活する世界中の子供達の様子をニュースなどで垣間見て、娘なりに胸を痛めていた様です。自分だけではなく、他のお友達にもサンタさんは来てくれる!それが本当に嬉しかったのでしょう。私もそんな娘の様子に心温まり、この機会をくださったサンタさん、スタッフの方々に深く感謝をしたのでした。 **愛媛県 30代女性**



# 知っていますか？日本にも、サンタが来ない子どもがいるんだよ。

## 1万人に届けてわかったこと

2014年に届けた子どもが1万人を超えました。その話のある勉強会でいた時、講師である川北秀人さんからこう問われました。

「君たちが届けている子どもは、どんな状況に置かれているか正しく把握している？それがわかると、これから本当にやるべきことがわかってくるはずだよ。」

## 顧客調査で見えてきた事実

そこで初めて「これまでサンタを呼んでくれた家庭への無記名アンケート調査」を実施しました。いくつかの仮説を立て、実際に集まった100人以上の声から様々なことがわかってきました。特に気になったのは「経済的に厳しい家庭の子どもには、サンタ活動を届けられない」ということでした。

## ウチにはサンタなんかこないから

「サンタを呼ぶために寄付してもらおう」2千円という金額が負担になって申し込まない人がいるのかも？ひとり親家庭は1千円にする？」そんなことを考えながら、「今はまだ届けられない経済的に厳しい家庭へ追加調査を行いました。」

すると、こんな声を耳にしました。「チャリティーサンタさんのことは前から知ってます。でもウチは、クリスマスプレゼントを準備する余裕がないから、申込ができません。」

「ハッと思いました。私たちの今の仕組みでは、申し込めない家庭があるということ。また、ある先輩経営者は、自身が5歳の頃に親から言われたエピソードを話してくれました。「貧乏な家には、サンタは来ないんだよ。あれは

お金持ちの家だけで親がやっていること。だからウチにはサンタなんか来ないからね。」

だから彼は、今でもクリスマスが近づいて街が賑やかになってくると嫌いだそうです。

## 「思い出が足りない子ども達」

「今は生活が少し苦しく娘に沢山我慢させているので、娘に楽しい思い出を残してあげたい。」(新潟県4歳の子どもの母親)

「2年前に夫が事故で亡くなりました。それから私は毎日フルで働き、子供たちにはとても寂しい思いをさせています。そんな子供たちに、クリスマスに特別な思い出を作ってあげたいです。宜しくお願いします。」(青森県6歳と4歳の母親)

「母子家庭で仕事もしていて正直子供と過ごす時間も一般家庭よりは短いです。お金面でも余裕がなく長期休みも旅行などには連れて行ってあげられなく、思い出が作ってあげられません。なので、サンタクロースがきたとなると、何よりの思い出になると思うのです。」(愛知県7歳と8歳の母親)

これらの声は、日本最大級のSNSサービス*mixi*を運営するミクシイ社の協力を得て行った、オンラインアンケートから抜粋したものです。全国各地から200以上の回答があり、一部には明らかに子どもに厳しい状況であることが感じさせる内容でした。また、多くの声に共通するのは「子どもに思い出を作れてあげられていない」という親からの切実な心の声でした。

## 大切なのはプレゼントの金額じゃない

実は以前から、経済的に厳しい状況の子どもへ取組をしてはどうか？という話は出ていました。しかし最後に踏みきれなかったのは、活動費(特にプレゼント費用)の問題でした。

しかし、そもそもクリスマスプレゼントが買えない子どもにとっては、金額うんぬんの問題じゃない。私たちが届けなければ、クリスマスが悲しい日になる子どもがいる。そして「サンタとの思い出が何よりもプレゼントになる」そのことがわかって決心しました。置かれている状況に関係なく、サンタを待つ子どもには全員に届けられる団体になろうと。

## ルドルフ基金の創設

そうは言ってもサンタが手ぶらでいくことはできません。ささやかなプレゼントとして、お菓子



ルドルフ基金

が入ったブーツのお菓子(なるべく見栄えがある大きなもの)を団体として準備することしました。

しかし、試算するとプレゼント代だけでも数十万円はかかり、来年以降を考えるとサンタの衣装や広報活動にも費用がかかってくる。そして、一度だけじゃなく継続的に活動していく中で、仕組みが必要。

そこで、今までの活動とは別に「ルドルフ基金<sup>※1</sup>」を創設し、新たに寄付を募り始めます。

## 4000人に届けてわかったこと

2015年のクリスマスには、私自身もサンタになり、経済的に厳しい家庭の子どもや、大学病院で入院中の小児がんと闘う子どもへ直接プレゼント

を届ける経験ができました。

7歳と5歳の姉弟は「今日は、生まれて初めてクリスマスをお祝いました。本当に嬉しかったんだ。そんな日にサンタさんに会えてプレゼントまで貰っちゃった。今日はもしかしたら夢なんじゃないかな？寝たら夢が覚めるかもしれないから今夜は寝たくない。」そんなことを話していたと後日、聞くことができました。(協力してくれた団体の方を通じて)

同じクリスマス・イブのあの日、あの時間。日本にも確実に「サンタが来ない子ども」がいる。結果として、2015年は、400人以上<sup>※2</sup>の子どもにもルドルフ基金を通じて、サンタからの特別な思い出を届けられました。

## 待っている子ども全員に届けよう

チャリティーサンタは、イブの夜にサンタクロースになつてくれる人(参加者)が2015年時点でも全国に2千人います。まだ届ける事ができません。ならば、あとは「プレゼントを準備すること」そして「サンタが来ない子どもへの保護者へ情報を届けること」。これが集まれば、届けることができる。一方で、これまでの活動の何倍も大変になると感じています。

でも「本物のサンタさんだったら、そういう子どもにもこそ届けるものじゃないか？」今ではそう考えるようになり、団体のメンバー達も賛成してくれ、これからさらに注力していきます。

チャリティーサンタは、ルドルフ基金はもちろん、これまでの活動も含めて「すべての子どもへ届けること」を目指します。合言葉は「子どもも全方位体制」そして「あなたも誰かのサンタクロース。」

代表理事 清輔

※1 童話「赤い鼻のトナカイ」の名前「ルドルフ」から名前をもらい命名。暗い夜道を真っ赤なお鼻で照らしてサンタを届けることから、サンタが来ない子どもへ届けることをイメージさせる。特に「経済的な事情をメインとした家庭の事情」でサンタが来ない子どもへサンタさんとの思い出を届けるための活動資金として位置づける。  
※2 施設や病院でクリスマスを過ごす子どもを含む

# クリスマスから、世界中の笑顔へ繋がる「支援活動」



## 震災から1年、震災の傷跡が残るネパールへ

ネパールの大震災から1年。チャリティーサンタでは日本からの物資と応援のメッセージを現地に届け、チャリティーコンサートの協賛を行いました。コンサートの演出で使用したソーラーランタンは被災家庭に贈られます。奇しくも直前に熊本大地震が発生。ネパール側からも日本へ温かいメッセージをいただきました。

### 活動費報告

**プロジェクト費用：109,303円。**このプロジェクトは 2014年度までのクリスマスイブのサンタ活動による寄付収益と寄付付きグッズの販売収益で実施されました。

●実施期間：2015年4月22日～5月13日 ●参加人数：5人 ●活動エリア：カトマンズ・バクタプル・ポカラ・カスキ ●実施内容：被災地でのダウンジャケット配布、チャリティーコンサート協賛など ●協力団体：NGO BluePoppy、元富士山ゲストハウスの皆様、ちょんまげ隊の皆様、青年海外協力隊の皆様



## 難病の子どもたち

病気と闘う子どもたちの元へ、サンタが元気を届けました

重い病気と闘う子ども達やその家族にとって、子ども達の笑顔はつらい闘病生活を乗り越えるための希望となり得ます。サンタさんが届けたのは、世界中から届いた応援のメッセージとプレゼント。驚きと共に病室を包んだ笑顔が、今後の病院での日々を明るくしてくれる思い出となる事を願い、サンタさんも想いを込めて一人ひとりにメッセージを伝えました。

●実施期間：2015年12月25日 ●参加人数：5人(子ども) ●活動エリア：千葉大病院(千葉市) ●実施内容：小児病棟へのサンタクロース訪問 ●協力団体：NPO法人シャイン・オン!キッズ

### 活動費報告

**プロジェクト費用：0円。**※本年度はトライアル実施ということ(株)ミクシィからの物品協賛により、経費はかかっておりません。



## 児童養護施設

家族と過ごせないイブを特別な1日に



クリスマスを施設で過ごす子ども達にとって、イブの夜は、自分宛のプレゼントがない事や家族と一緒に過ごせない事実を浮き彫りにします。プレゼントを贈るだけではなく、一緒にクリスマスを過ごすために数カ所の施設を訪問しました。サンタさんからの「1年間頑張ったね」の言葉は子ども達の心に届いたようで「夢のような日だった」と感想をもらいました。

●実施期間：2015年12月下旬 ●参加人数：94人(子ども) ●活動エリア：東京、神奈川、広島 ●実施内容：児童養護施設・ショートステイ施設へのサンタクロース訪問 ●協力団体：全国シャンメリー協同組合

### 活動費報告

**プロジェクト費用：6,666円。**このプロジェクトはルドルフ基金・「サンタクロースからの手紙」事業の寄付収益、(株)ミクシィからの物品協賛により実施されました。



## 福島生き×活きキッズ

自然の中で、子ども時代の豊かな経験を増やす



3.11の震災以降、外で遊ぶ機会が減ってしまった福島の子どもたちを対象に「生きる力を育むこと」を目的とした「生き×活きキッズツアー」。今年度は岡山と甲府の二カ所で開催しました。大人になって思いうす、ひと夏の特別な体験。普段は屋内での遊びが多い福島キッズも直接自然に触れたり、大人と協力したりする経験を経て大きく成長しました。

●実施期間：2015年8月8日～8月13日(岡山)、2015年8月9日～13日(山梨) ●参加人数：29人(子ども) ●活動エリア：岡山、山梨 ●実施内容：福島在住の子どもの保養キャンプ ●協力団体：NPO 法人英田上山棚田団の皆様、芦川グリーンロッジの皆様

### 活動費報告

**プロジェクト費用：1,254,827円。**※ツアー参加スタッフの参加費を差し引いた金額。このプロジェクトは 2014年度までのクリスマスイブのサンタ活動による寄付収益と寄付付きグッズの販売収益で実施されました。



## 子どもの貧困

クリスマスに「特別な思い出」を

「プレゼントを準備する余裕がない」という理由で、サンタクロースが来ない家庭があります。本当は子どもにサンタさんからのプレゼントを渡したいのに、クリスマスの思い出を作ってあげられない…そんな親御さんの想いに応え、経済的に厳しい状況にある家庭へ依頼費不要のサンタ訪問を始めました。



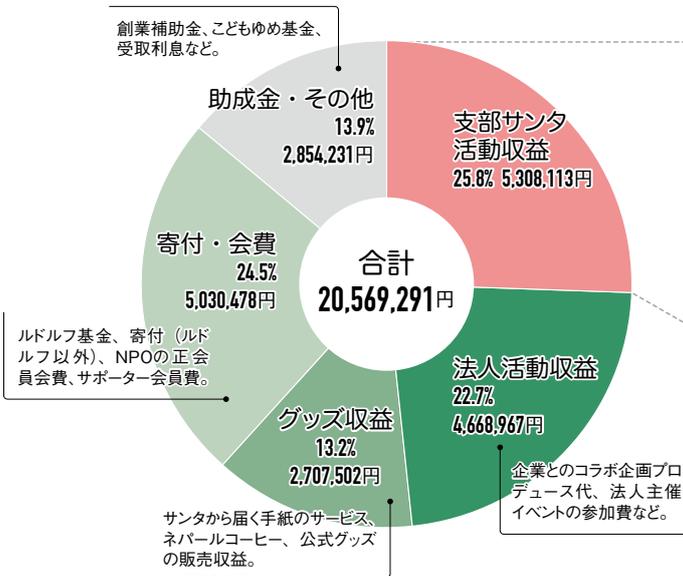
●実施期間：2015年12月24日 ●参加人数：62人(子ども) ●活動エリア：宮城、群馬、東京、神奈川、名古屋、三重、大阪、岡山、広島、福岡、沖縄 ●実施内容：家庭へのサンタクロース訪問 ●協力団体：株式会社ミクシィ、NPO法人キッズドア

### 活動費報告

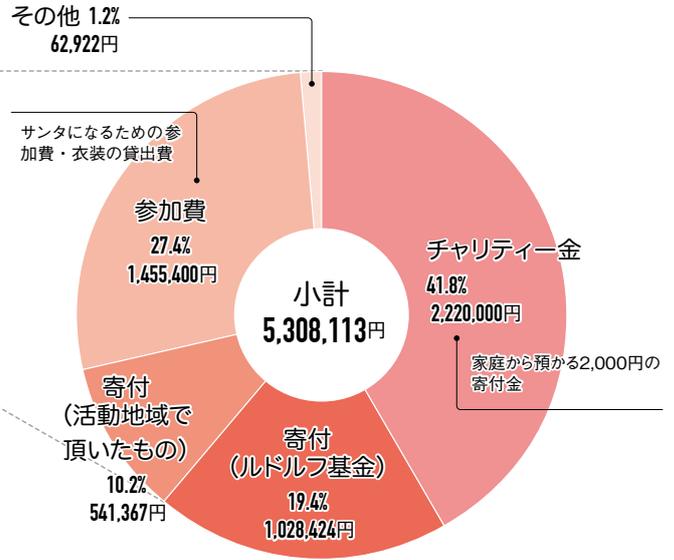
**プロジェクト費用：90,328円。**このプロジェクトはルドルフ基金の寄付収益、(株)ミクシィからの物品協賛により実施されました。

# 2015年度収支報告 (2015年6月1日～2016年5月31日)

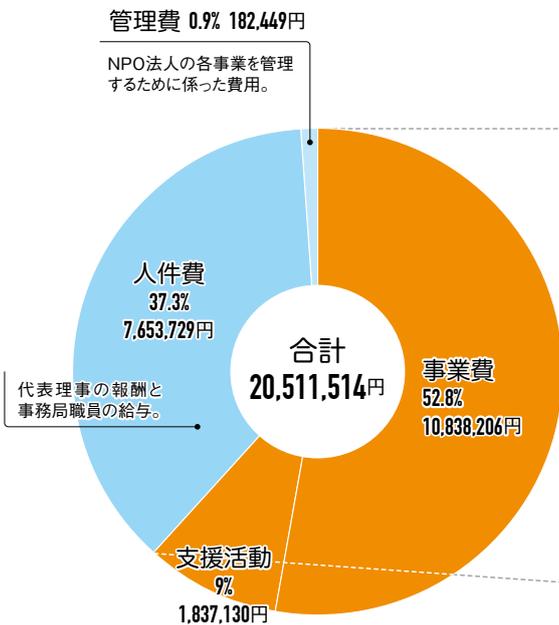
## NPO法人全体収益



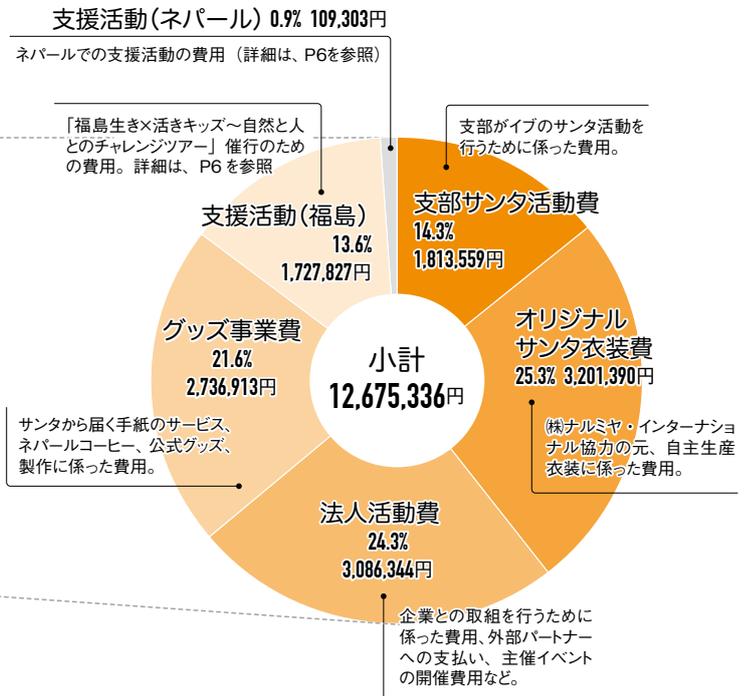
## 支部サンタ活動収益



## NPO法人全体支出



## 事業費・支援活動支出



## NPO法人チャリティーサンタの方針

NPO法人チャリティーサンタでは、活動開始当初から、明瞭で透明性のある収支報告を目指しています。12月24日に、ご家庭へ訪問する際に預かったチャリティー金をできるだけ多く、支援活動に使うような運営を心がけています。最終的には、「クリスマスに預かったチャリティー金は、全額支援活動に使えるようにすること」を目指していますが、まだその理想には至っていません。

なお、全国の支部活動運営費については、ボランティア参加者から参加費を頂いたり、運営費として使うための寄付を頂くことで賄い、チャリティーからの支出を必要最低限に抑えるように努めています。

代表理事の清輔と事務局長の城田の件費は、チャリティー金から支出せず、他

の事業収益から支出しているため、チャリティー金からは、一切出さない方針です。「世界中の子どもたちを笑顔にしたい」その想いから始まったチャリティーサンタは、これからも想いは変わらず、想いやりで世界をつないでいきます。これからも変わらぬ応援のほど、よろしくお願いたします。

※上記の収支報告は、限られた紙面の中で、なるべくわかりやすく項目を分けて、記載している情報です。NPO法人としての正式な会計報告については、チャリティーサンタ公式Webサイト上での報告をさせていただきますので、そちらをご参照ください。ご不明点などございましたら、[info@charity-santa.com](mailto:info@charity-santa.com)までお問い合わせください。また、2015年に預かったチャリティー金は、主に2016年の支援活動（福島、ネパール）に使わせて頂きます。

# チャリティーサンタの“はじまり”と“これから”

▽ **チ**ャリティーサンタは、共同創設者の2人の出会いにより始まりました。1人目は、幼少期にサンタさんとの感動体験をした清輔（現代表理事）。2人目は、ピースポートを通じて途上国を訪れ、子どもに人生の選択肢を増やす支援活動をしたと決意した大岡。2人の想いが重なりアイデアが生まれ、サンタクロースを通じた支援活動として、2008年に始まりました。

スタートから間もなく10年。

「アパレルメーカーと本格的なサンタ衣装を作りたい」

「サンタが来ないような子どもに届けたい」

「海外にスタッフを置き、本質的な活動をしたい」

当初、夢物語のようにイメージしていたことが年々現実になってきています。

一方、日本国内では、格差が広がる社会状況や子どもの貧困が明るみになってきた昨今。

私たちの活動でもそれが表面化し、ルドルフ基金をスタートしました。

2016年は、さらに活動を進化させるべく「サンタ白書」の発行、チャリティーサンタ応援団「TEAM トナカイ」の会員制度スタート。

また、ネパールでの支援活動が進化し、村のお母さん達に新しい仕事をつくることで、子どもが学校へ通える状況をつくる取組にもチャレンジしていきます。(Santa Mother's Dreams プロジェクト)

ただ、ずっと変わらない想いは「世界中の子どもが笑顔でいられる世の中にしたい」という、祈りのような素直な気持ち。私たちのような普通の大人ができることから少しずつ、子どもへ手を差し伸べていく。

最初は「目の前のこの子」のためでもいい。それがまた別の子どもへ、そしてもう少し向こうへ。気づけば世界とつながっている。

夢の様な話に思えますが、叶うまで私たちはずっと続けていきます。

そろそろ、僕らがかつて届けた子ども達が大学生になる頃。彼らがサンタ側になり始めると、活動は世代をまたいで、ずっと続く文化になる！そう考えています。

そんな夢物語と一緒に関わってみませんか？

関わる人が1人また1人と増えて、みんなの夢になることが、僕の夢です。

**2026年**

47都道府県で活動。  
日本から世界へ

**2016年**

サンタ白書発行、  
Santa Mother's Dreams &  
熊本サンタプロジェクト始動

**2015年**

ルドルフ基金スタート&  
サンタになった大人  
1万人突破

**2014年**

祝！NPO法人化&  
届けた子ども  
1万人突破

**2013年**

オリジナル衣装  
製作開始

**2010年**

全国合宿スタート  
&サンタ講習会  
参加必須に。

**2009年**

全国12地域に活動が  
拡大1450人の子ども  
達の元へ。

**2008年**

チャリティーサンタ発足  
200人の子ども達の元へ。



チャリティーサンタ代表理事  
きよすけ 清輔 夏輝



ルドルフ基金



これまでの活動の  
振り返りを  
ムービーで見る！

